

令和4年度熊本市小英研 研究部提案について

1 研究主題

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～互いの考えや気持ちを伝え合う授業の創造を通して～

2 研究主題について

(1) 「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童」の具体像

本研究における目指す児童の主体的な姿とは、獲得した知識及び技能を生かし、自ら設定した課題解決に向けて、見通しをもって、粘り強く取り組む姿である。また、その粘り強い取組を行う中で、試行錯誤しながらも自らの学習を調整し、目的や場面、状況等に応じたコミュニケーションを図る姿である。

(2) 「互いの考えや気持ちを伝え合う授業」の具体像

本研究における目指す授業とは、小学校外国語教育における言語活動である「実際に英語を用いて、互いの考えや気持ちを伝え合う」活動が、児童の主体的な姿を通して随所に見られる授業である。

3 研究の仮説

必然性のある言語活動を意識した学習過程や評価の方法及び学年間のなめらかな接続・連携を工夫すれば、児童が外国語で伝え合う意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。

4 研究の視点

(1) 必然性のある言語活動を意識した学習過程の工夫

- ・児童が取り組みたくなる課題設定の工夫
- ・単元やゴールを見通したバックワードデザインの授業づくり
- ・目的・場面・状況を意図した言語活動の設定

(2) 指導に生かす評価の工夫

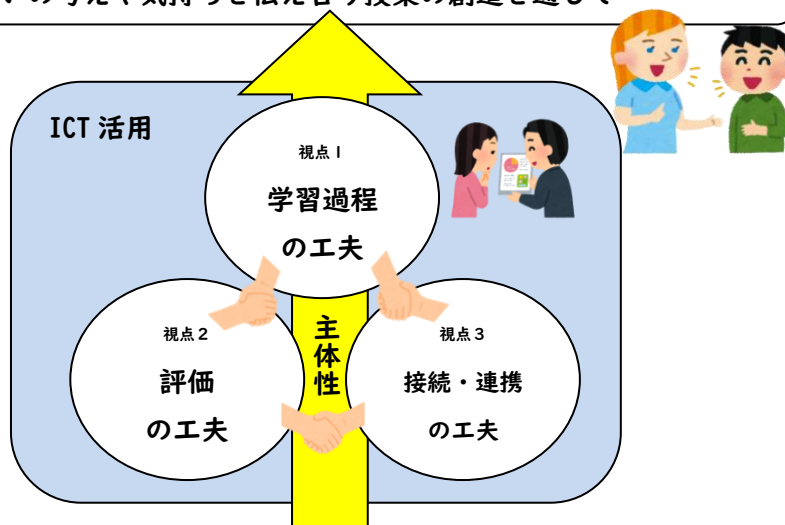
- ・児童が自分の学び（言語と内容）を実感する振り返りとフィードバックの工夫
- ・ルーブリックの作成と活用

(3) なめらかな接続・連携の工夫（外国語活動から外国語科へ・中学年から高学年、高学年から中学校へ）

- ・学習内容、学習方法、教材の系統性の指導者における共有
- ・児童の学びの情報共有

5 構想図

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～互いの考えや気持ちを伝え合う授業の創造を通して～



【仮説】 必然性のある言語活動を意識した学習過程や評価の方法及び学年間のなめらかな接続・連携を工夫すれば、児童が外国語で伝え合う意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度が育成されるであろう。